

「信じる」というエネルギー

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第2936号
(2011年11月15日発行)より

最近、しみじみ感じていることのひとつに、「信じる」って、すごいエネルギーだなあということがあります。

けれども、この「信じる」ということばは、しばしば誤解されて使われているように感じます。「信じていたのに裏切られた」「信じていたのに失望した」そんなことばを聴くときです。

ちょっと辛口の言いかたになっちゃいますが、それって、本当は、「信じていた」のではなく、「期待していた」だけではないかと思うのです。

もちろん、相手は、ひょっとしたら、「〇〇を(実現)する」とか、宣言していたかもしれません。結果として、期日までにそれが達成できなかったかもしれません。現象として「達成できなかった」、それはまちがいないありません。

でも、だから、「信じられなくなった」とか、「信じていたのに」というのは、おかどちがいがい。そのときこそ、あなたの出番だからです！

できているときに「信じる」と言うのは、誰にだってできること。うまくいっていないときこそ、「信じる」エネルギーが必要なんです。

だって、当人だって、絶対へこんでいるはずですからね。それこそ、これまで以上に、エネルギーを必要としているはずですからね！

「信じる」というのは、目先の「何か」ができることを、期待することではなく、そのひとが、そのひととして生きていく、そのまるごとを、応援することだと思うのです。だから、いったん「信じ」たら、そのひとが生きていくかぎり、終わりはないのだと思うのです。

永遠に、相手のために、エネルギーを送りつづけること。それが、「信じる」ということ。言い換えれば、「信じる」というエネルギーには、それだけのちからがあるんです。

さらに言ってしまうと、それだけの覚悟がないなら、最初から、「信じる」なんて、言わなければいいのです。素直に、「期待している」って言えばいいのです。

「期待」は、「期を待つ」と書きますから、相手の問題ではなく、自分の問題です。宝くじに置き換えてみるとわかります。「当たるといいなあ」って期待して、はずれても、「裏切られた」とは思わないでしょ(笑)。自分の問題ですからね♪

それにたいして、「信じる」は、ひとにはたらきかけるエネルギーです。あなたのエネルギーの出しかたが、相手を変えていくのです。

私は、子どもの表現活動に20年近くかかわってきて、目の前の子どもがどういう状態であろうと、完全に、全面的に信じることに決めました。

そうすると、目先の現象に左右されなくなりやすくなるから、何があろうと、安心して見ていることができます。

実際、うまくいかない状態を、目の前に

していても、「大丈夫。大丈夫」って、こころのなかで、思いが湧き上がってくるんです。

だって、一生応援していくのですからね。いま、結果が出なくたって、何も問題ありません。あとは、自分に必要な出番がきたら、いつでも出動する準備をしておくだけです♪

「信じる」というエネルギーを、私たちがもっとも活用することかできたら、世界は、もっともっと、パワフルに変わっていきます。そう考えたら、使わないのは、もったいないと思いませんか？

あなたのなかの「信じる」というエネルギー。よかったら、見直してみてください。「期待」しているだけよりも、絶対に、わくわくする変化と出会えるはずですよ！

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、2003年11月1日創刊。2011年10月、2900号達成。3秒で読める携帯版もあり。無料講読は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>